神成

発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢（〒155-0031）　2-22-10
電話　代表03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料　1部80円
（会員の購読料は会費に含む）

2025
No.630
2月号

―みろく大神―

幾万年待たれ給いし大神の
仕組は今し成らんとすなり
地上天国打樹んとて大いなる
力揮わす五六七大神
無限絶対の
力の原は主の神の
尊き御魂にありとこそ知れ

御光筆　**大神力**

引首印　大光明
落款　自観
落款印　岡懋之印　地上天国

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ
（一）みつめなおそう明主様の心
（二）つらぬきとおそう明主様の心
（三）教団綱領を尊び実践する
（四）信仰継承は家族と家庭円満から

神霊力

力について世の中の人は深い事を知らないからここにかいてみるが、これを科学的定義でいうならば、目に見える形ある力程弱く、見えない力程強いという原理である。即ち前者は何馬力とか、何瓩とかいうように限度があるが、後者に至っては無限である。つまり人間の想念と同じで、目には見えないが恐るべき力がある。偉い人の力は一人で世界を動かす事さえ出来るのは人の知る通りである。

右は人間だけについての説明であるが、これを押し広げたのが神様の力である。これを科学的に説く事も出来る。即ち科学で唱える粒子説がそれで、これによると人間の霊は素粒子であって、神様の霊は微粒子である。勿論神様でも神格が高まる程、微粒子の度は益々高くなりそれと共に希薄にもなるのである。この様に力学的にいっても素粒子程力が弱く、微粒子程力が強い事を知るべきである。この理によって最高級の神様の事を、神道では幽の幽とか、又は幽幻微妙などとも言われるのは全くそれを表現した言葉である。この理によって私に与えられている神力は、最高級の神霊であるから、絶対力といってもいい位のもので、この力を本当に揮われた者は、昔から一人もなかったのである。彼のキリストにしろ、言い難い話だが割合弱かったのは事実がよく示している。即ちキリストの行った奇蹟といっても御自分だけのもので、弟子達にまで分け与える事は出来なかったのである。その他の聖者にしても、悉く限られた力であった事はその事蹟が示している。

ここに私の事を少しかいてみるが、私の発揮する力と大きさと強さは、無限絶対と言ってもいい位で、現在行使している力は一部の発揮でしかないが、それでも知り得た人は驚嘆する。信者は勿論だが信者の中でも熱心な人で何分の一位しか分かり得ないのである。言う迄もなく何れは本当に発揮する時が来るから、その時は開いた口が塞がらないであろう。故に今から腹帯をしっかり締めておく必要がある。そうして私が現在現している力だけでさえ病気を治す人間を作り、農業の増産法を教え、神の実在を分からせる奇蹟を現しているばかりか、大規模な地上天国や美術館をも造っているのだが、之等はほんの小手調べで時と共に段々押し広がり何れは世界的に天国を造る事になろうから、本当の神力はこれからである。

其の様な訳でもっと詳しく知らせたいが、今言った処で到底信ずる事は出来ないし、神秘であるから、ほんの一部だけ時に応じ、進むに従い発表するのである。これを要約すれば善言讃詞にある通りの世界を造ってゆくのである。特に一言いっておきたいのは、最大の争いである国と国との戦争であるが、これも私は時が来れば、一挙に無くす事が出来るだけの力も有っているから、安心して貰いたいのである。

信徒研修会のお知らせ

今から遡ること、十六年前の平成二十一年、【『神奉五ヵ年必達信仰信条』実践第二年目を迎えて　明主様霊統をより広くより太く継承】という光守様の御心のもと、『救いの光教団綱領』を中心とした積み重ねの学びとして信徒研修会が始められました。その研修会もコロナ禍の影響を受けながらも昨年、学びの一区切りを終えました。積み重ねの研修会という事もあり、多くのテキストを賜りました。テキストの内容は事細かくまとめられておりますので、その都度、気になる所を見返すこともあるかと存じますが、時節が進むに従い、学び直しの機会を逃している方もおられる事と存じます。しかし、内容は教団綱領に沿った基本的な事も多く含まれていること事から、この度、令和七年三月より毎号の神成第二面を利用してテキストの学び直しをさせて頂く事となりました。教団綱領は三項目ありますが、一項目ずつ要点をまとめて、皆様に理解していただきたいところをイラストなども含めて掲載し、各布教拠点におきまして、この内容をもとに研修会を行ってまいります。なお、研修日程は別表の通りです。

毎月の神成にて学び直しの機会を一人でも多くの方にもっていただきたいと願っております。

信徒研修会日程表

研修月	研修内容
令和七年 三月から七月	【教団綱領】 正神を敬い　祖先を尊び　恵みの光に浴して 感謝報恩の生活を送ります（全五回）
八月から十二月	【教団綱領】 明主様の教えを心に誓い　光をまくばり　救いの業を 普く世にひろめます（全五回）
令和八年 二月から六月	【教団綱領】 誠と愛の人となり　利他の心を救いとして 世の光となるよう努力します（全五回）
七月以降	新規の研修会を予定

※令和八年一月の研修はありません。

御聖誕百四十二年祭・大感謝執り行われる

去る令和六年十二月二十三日、東京本部において明主様御聖誕百四十二年祭・大感謝が執り行われた。この日は光守様のお出ましを賜り、明主様の御聖誕をお祝い申し上げるとともに、大光明・明主様に一年間の感謝を「大感謝」としてお捧げする納めの大御祭典でもあった。また、会長が自身の浄化のため祭典を欠席したことから窪田責任役員が会長挨拶を代読した。

御聖誕祭　会長挨拶　要旨

本日は、明主様御聖誕百四十二年祭・大感謝、また東京教会におかれましては十二月今年納めの感謝祭、誠におめでとうございます。

本来であれば、会長である私が今年の感謝のごあいさつを申し上げるべきところですが、一週間前より左足の浄化を頂き、歩くことが困難となり、自宅での療養に専念させていただくという苦渋の選択をさせていただきました。誠に申し訳ございません。

さて、今年を振り返りますと、元日に発生いたしました能登半島地震に続きその後の豪雨災害、猛暑など自然界の異変が著しかったように思います。そのような中でも自然農法による作物の成長は素晴らしく、稲作においては増収となるなど自然農法の順応性が証明されたのではないかと思います。また、教団の中に目を向けますと、光守様のご浄化は私たち信徒にとりまして、大きな衝撃でした。しかし、天津祝詞・善言讃詞の言霊による奇蹟、皆様の想念浄霊をはじめ、大光明・明主様からの数々の御守護を賜り、奇蹟的なご快復を続けておられます。さらには教団の大きな行事として令和六年六月十五日には、平成に続いての鋸山日の出参拝のお許しが頂けましたこと、また神成郷より遷された一万五千個にもおよぶ美須磨留の霊を東京本部境内地に埋納させていただき、その証となる、記念碑「赫誠の碑」が建立されました。その外構工事も信徒の皆さんの赫き誠のご奉仕により昨日完成し、この佳き日に皆様にご報告できますこと本当に有難く思います。

さて、明主様の御聖誕に話を戻しますと、明主様は百四十二年前の一八八二年、明治十五年に今の東京都台東区浅草の地に御聖誕あそばされました。その後は様々な人生の紆余曲折を経て人類救済の大使命がご自分にあることをご感得なされ、霊界の夜昼転換と霊主体従の法則を主神より知らされ、浄霊法による救いの業、自然農法の提唱と普及、美による救いを柱に邁進され、教祖の教えを受け継ぐ団体を中心に世界中にその教↖

明主様御聖誕を祝すとともに一年の感謝が捧げられた

↙えが拡がっています。

ここで大切な事は、人間はひとりひとりが神様からの使命を受けて生まれてきている事です。その中には指導する立場となる者、またそのもとで働く者、国を治める者、またそこに住まう者、それぞれが個性を与えられ、ふさわしい仕事をすることでこの世の地上天国が生まれるのではないかと思います。しかし、私たちは最初からその使命を神様から教えられているわけではありません。そこは人間に与えられた自由かもしれませんが、人それぞれに個性があり、考え方も違います。もちろん衝突することもあり、同調することもあります。そういう積み重ねを通じて自分に与えられた使命、道というものが定まってくるのだと思います。それが神様のスイッチかもしれません。

「みんな違って、みんないい。」という言葉があります。お互いがこの気持ちをもって接することができれば争いのない社会が作られるのではないでしょうか。

最後に明主様の御聖誕をお慶び申し上げ、今年納めの感謝の祭典を皆様とともに執り行う事が出来ましたことに感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

会長のおはなし

令和六年十一月　慰霊祭

祖霊様は、若くして帰幽された方、大きく年を重ねて帰幽された方と様々です。教団では御霊様を祖霊殿にお招きするご招魂を慰霊祭の前日、当日と行っております。お申込み頂いた各家々の先祖代々の御霊様をはじめ、個人におきましては、生前の名前、いわゆる俗名を御霊名（みたまな）と呼んでおります。それに続き、畏敬の念を込めて、男性の場合は日子之御霊（ひこのみたま）、女性の場合は日女之御霊（ひめのみたま）という称（たた）え名をつけてご招魂申し上げております。また、生まれてから十四歳未満の称え名は、男性の場合は若子之御霊（わこのみたま）、女性は少女之御霊（わかつめのみたま）と申し上げております。さらに、この世に生を受けることなく帰幽された御霊様は水子様として、ご招魂申し上げております。従いまして、御膳の献立も、大人向けの御膳、子供向けの御膳に分けてそれぞれに、好みそうな物を調理してお供えしております。

ご招魂の際には個々に清書された慰霊祭祀書を一枚一枚読み上げて御霊様をお招きしております。慰霊祭が終わりますと本部より供養させていただいたことが明記された書類が届くと思いますが、それが祖霊様のご供養をさせて頂いた証（あかし）となります。当日は祖霊殿中央の箱に納められております。ご供養のお申込みをされ、慰霊祭を終えてその書類を受け取られましたら、その証をご確認していただきたいと思います。

祖霊様のお膳には大人向け、
子供向けの料理などが盛られている。

水子様のお膳には子供向けの料理や果物、
お菓子などが盛られている。

令和六年十二月　慰霊祭

十二月は一年の納めの月でもあります。各教会でもすす払いといいますか、大掃除が行われたところもあると思います。神様への一年間の感謝の気持ちをもって掃除に取り組み、新しい年をむかえる準備をされていることと思います。また、職場や学校、家庭におかれましても同様に今年一年の整理整頓、大掃除などあわただしくなる時期ではありますが、心穏やかに新しい年を迎える準備をしていただきたいと思います。

特に神様、祖霊様をお祀りされているお部屋、仏壇などの掃除は普段よりも念入りにされると神様、祖霊様も、お前たちのおかげで気持ちよく新しい年をむかえることが出来ると、お喜びになるのではないかと思います。

明主様は御霊のふゆということについて仰っておられます。これは「徳」と関係があります。徳は人のためとか、世の中のためになることをすることであり、これをたくさん行うことを「徳を積む」と言います。明主様は『徳を積むには御浄霊のお取次ぎやこの信仰に導いたりするのが一番いいんです。人を永遠に救う信仰に入れるほど、徳を積むのにいい方法は他にないんですよ。』『徳を積むと大勢の人が感謝しますからね。その感謝の光でその人の霊が太り、霊の栄養になるんです。』と仰っておられます。そして、『「ふゆ」ってのは「殖（ふ）える」で太ることなんです。太ると光が多くなるから霊層界の上にのぼり、仕合せも、いいことも多くなるんです。』と仰っており、徳を積むことで霊が太る、これが「御霊のふゆ」ということです。表現がふさわしいかどうかわかりませんが、徳というポイントを積むことでどんどん幸せになれるということかもしれません。さらに、『肉体にも痩せたのと太ったのとがあるように、魂にも痩せたのと太ったのとがあるんですよ。そして魂は太ってなくちゃいけないんです。肉体の太り方とは違って、魂が太ると驚くほど非常に大きくなるんです。よく物に怯える人や、恐怖症の人は魂がやせて萎縮してるんです。いままで恐怖症だった人がこの信仰に入ると、そういうことがなくなりますよ。魂が太り、魂の量が殖えるからなんですね。そうすると、外界の影響や刺激をはねつける力が強くなって、割合に恐怖心も起きず、物に怯えることもなくなるんです。』と仰っておられます。私たちの祖霊様の中にも生前、この信仰にご縁を頂き、今お話ししたような徳を積まれた方が多くいらっしゃるのではいかと思います。

今の私たちがこうしてあるのは、祖霊様の積まれた徳のおかげかもしれません。また、信仰二世、三世の方もおられることをみますと、家族をこの信仰に導いてきた徳により受け継がれてきているものではないかと思います。このようなことから、祖霊様の積まれた徳に感謝の想いを寄せつつ、私たちも自分の魂を太らす徳を積ませていただけるように過ごしてまいりましょう。

最後に、令和六年納めの慰霊祭にて祖霊様のご供養を執り行うことが出来ました事、大光明・明主様、幽世大神様に感謝を申し上げ、光守様に想いを寄せつつ、ご挨拶とさせていただきます。

哀悼慰霊祭執り行われる

昨年の令和六年十二月三十一日、令和五年末から令和六年末までに帰幽された五十柱の御霊様の「哀悼慰霊祭」が光守様ご臨席のもと執り行われました。

この日は、祖霊殿に御膳をお供えし、一柱一柱、御招魂させて頂き、献花、善言讃詞、神歌を奏上し懇ろなる御供養の式典となりました。御招魂させて頂いた方は左記の方々です。

哀悼慰霊祭　御招魂者　名簿

（敬称略／●印は信徒）

令和五年十二月十五日……山口　泰治
〃　十二月二十二日……古川のり子
〃　十二月二十五日……辻田　絹子
〃　十二月三十一日……●井上佐知子
〃　十二月三十一日……栗田　博喜

令和六年一月二日……霜田　三哉
〃　一月十日……●青谷真由美
〃　一月十一日……●遠山　芳行
〃　一月十六日……●遠山　三邦
〃　一月二十日……加藤　春子
〃　一月二十一日……中島たか子
〃　一月二十八日……前田　剛
〃　一月二十八日……浅井　康弘
〃　二月一日……●羽生　清彦
〃　二月二日……井口　美義
〃　二月六日……●小島　邦雄
〃　二月十日……金子　博和
〃　二月二十日……角　晃
〃　二月二十四日……大森　康二
〃　二月二十九日……田中香代子
〃　三月一日……●寺澤　和子
〃　三月一日……鳥山　明
〃　三月十五日……●鈴木　利尚
〃　四月六日……矢萩　忠治
〃　四月七日……●小松きぬ子
〃　四月十七日……桒原　崇
〃　六月二日……伊藤　節子
〃　六月十一日……伊藤とし江
〃　六月十七日……佐藤　正弘
〃　六月十八日……山口　俊子
〃　七月一日……鈴木　君枝
〃　七月三日……石川　治
〃　七月十五日……●古川　良治
〃　八月十日……●白畑　栄一
〃　八月十四日……東　みさを
〃　九月二日……●大塚　忠敬
〃　九月六日……布山わき子
〃　九月八日……古屋　良
〃　九月九日……竹内　仁子
〃　九月十三日……横田　修
〃　九月二十日……恒川美弥子
〃　九月二十一日……工島　忠一
〃　十月十四日……●控井　アキ
〃　十月三十日……●原田佐千子
〃　十月三十一日……関　芳江
〃　十一月十三日……千葉レイ子
〃　十一月二十四日……長尾　浩一
〃　十二月一日……●中畑　安雄
〃　十二月二日……原田　龍美
〃　十二月十五日……●小池　孝子

※御霊様のご平安をお祈り申し上げます。

特別大祈願祈念御下賜 守護鈴「光鈴」について

『光明に住する人の言霊は 鈴の音のごといと快き』

鈴は古くから、延壽、招福をもたらし、物事が成るということで尊ばれております。この「光鈴」は、大光明・明主様の神光を頂き、皆様の御祈願が叶えられるよう、深いお祈りがこめられております。「光鈴」を身近におかれ、自らの魂を磨き本心からでた誠の言葉が〝鈴の音〟のごとく快く響き亘るように努めてまいりましょう。

教団創立五十三周年　救いの光教団
令和七年（二〇二五年）　乙巳　立春

春季大祭・春のみたままつり、三月感謝祭のお知らせ

◎祭典日　令和七年三月二十日（木・祝）十時
◎参拝所　東京本部、各布教拠点（本部より一斉中継）

春の大御祭典とともに春彼岸の慰霊祭および三月感謝祭を執り行わせていただきます。

大光明様、明主様への感謝と祈りをお捧げさせて頂くとともに、祖霊様に心のこもった御供養をさせて頂きましょう。

VEGETABLE OIL INK　植物油インキを使用しています。